

子育て支援とカウンセリング (2) —埼玉県内の保育所の保育者を対象とした調査から—

井上清子*・石川洋子**・会沢信彦***

Child Care Support and Counseling (2) —Results of a Survey Taken of Nursery Teachers in Saitama Prefecture—

Kiyoko INOUE Hiroko ISIKAWA Nobuhiko AIZAWA

要旨：本研究では、保育現場におけるカウンセリングのニーズと研修会への参加の現状を知ることが目的として、埼玉県の保育所に勤務する保育者を対象に、質問紙による調査を行い、保育士層と指導者（役職者）層に分け、比較検討した。

その結果、指導者層の方が、カウンセリングに対する関心、子どもや保護者、保育者間の関わりにおける問題意識が高く、保育の現場におけるカウンセリングの技術や知識の必要性も強く感じていた。

カウンセリングの研修への参加経験は、保育士層で有意に少なく、6割以上は参加経験がなかった。その理由としては、時間がないことや情報がないことがあげられていた。

しかし、保育者を対象としたカウンセリング研修への参加希望は保育士層、指導者層とも約9割であり、両層ともニーズとしては充分にあることが確認された。

キーワード：子育て支援 カウンセリング 保育 保育所 研修

はじめに

平成11年に、保育所保育指針の内容が変更され、保育士が保護者との積極的な関係づくりや保育所における地域子育て支援を行うことが盛り込まれた。平成13年には、児童福祉法の改正が行われ、保育士は国家資格として位置づけられ、乳幼児の保育とともに保護者への指導を行うこととされた。平成14年度から「家族援助論」が必修科目として新設されるなど、保育士養成カリキュラムも変わってきている。若林¹⁾の研究によると、関東地域の保育士養成校34校中25校(71%)がカウ

ンセリングの授業を取り入れており、31校(91%)が必要であると回答していた。

一方、平成13年策定の文部科学省による「幼児教育振興プログラム」でも、幼稚園における子育て支援の充実を図る方向性が示され、幼稚園教育要綱(平成10年改訂)にも幼稚園における子育て相談を行うことなどが明記されている。さらに中央教育審議会答申「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について」(平成17年)でも、具体的施策の中で、子育て支援の推進や幼稚園等施設における地域の人材活用として保育カウンセラーの例があげられている。幼稚園教諭免許取得のためには、カウンセリングを含んだ教育相談等が必修科目として設定されている。

子育て支援の現場における先行研究では、

*いのうえ きよこ 文教大学教育学部心理教育課程

**いしかわ ひろこ 文教大学教育学部心理教育課程

***あいざわ のぶひこ 文教大学教育学部心理教育課程

橋本ら²⁾の地域子育てセンターと保育所の職員を対象とした調査で、面接相談・電話相談などの相談業務の実施にあたっては、保育士の知識と経験「プラス新しい知識や経験が必要」と感じていること、必要と思われる研修として「カウンセリングの技術」が高い割合であげられていることなどが報告されている。

石川ら³⁾は、子育て支援カウンセリング講座の参加者を対象とした調査で、カウンセラーの「基本的態度」やカウンセリングの「基本的技法」「専門的技法」「親の心理」「子どもの心理」「発達障害」などが学びたい項目として多かったと報告している。

しかし、保育や幼児教育などの現場でのカウンセリングのニーズや、今後保育者養成や在職者研修で行うべきカウンセリングの授業や研修の具体的内容についての研究はまだ充分とは言えない。これらの背景をもとに、今回筆者らは、保育所に勤務する保育者を対象として、カウンセリングの研修のニーズを中心に調査・研究を行ったので報告する。

研究の方法

1. 調査対象と方法

埼玉県内の全775箇所の公立・私立の認可保育所の所長宛に、調査票2部と、返信用封筒を同封し、郵送した。各保育所の住所は、こども未来財団のホームページ「i-子育てネット」のリストを利用した。異なる2名の保育者に無記名にて調査票に記入してもらい、

返信用封筒にて返送を依頼した。315箇所（保育者570名）から返信があり、回収率は、40.6%（36.8%）であった。

なお、統計的処理には、統計解析パッケージSPSS for Windows 11.0Jを使用した。

2. 調査時期

2006年1月

3. 調査内容

設問や選択肢については、石川ら³⁾の先行研究を参考にして作成し、以下の内容で構成した。

- (1) 回答者の属性（年齢，性別，保育経験年数，勤務先，役職）
- (2) 保育現場で感じる問題や困難
- (3) 問題や困難を感じた時の相談相手
- (4) 職場の人間関係の中で感じる問題や困難
- (5) カウンセリングに対する関心の度合い
- (6) カウンセリングの中で学びたい内容
- (7) カウンセリングの知識や技術の必要性を感じる場面
- (8) カウンセリングの研修について， 経験の有無， 参加しづらい理由， 参加の希望
- (9) 自由記述欄

結果

1. 対象者の属性

対象者の属性を表1に示した。今後の在職者研修に生かすべく、今回は、非役職者と役

表1 対象者の属性

	保育士層	指導者層
役職	なし(保育士)	副主任, 主任, 主査, 副園長, 園長
人数	227名	330名
性別	男性4名, 女性223名	男性16名, 女性312名, 不明2名
勤務先	私立保育園100名, 公立保育園127名	私立保育園106名, 公立保育園221名, その他3名
年齢	平均36.4歳(標準偏差10.0)	平均49.2歳(標準偏差8.6)
保育経験年数	平均13.3年(標準偏差9.3)	平均25.3歳(標準偏差9.5)

子育て支援とカウンセリング(2)

職者に分類し集計を行った。

保育士層(非役職者)は、227名、指導的立場にあると思われる役職者層(副主任,主任,主査,副園長,園長など)は330名であった。

保育士層の平均年齢は、36.4歳(標準偏差10.0),平均保育経験年数が13.3年(標準偏差9.3),指導者層の平均年齢は49.2歳(標準偏差8.6),平均保育経験年数が25.3年(標準偏差9.5),で指導者層の方が、保育士層よりも平均年齢,平均保育経験年数とも高かった。(t検定 p<0.01)

2. カウンセリングに対する関心

対象者のカウンセリングに対する関心を5段階評定(「とてもある」5,「少しある」4,「どちらともいえない」3,「あまりない」2,「全くない」1)で回答を求めた結果を示したものが、図1である。

「とてもある」「少しある」の「関心あり群」が、保育士層では87.6%,指導者層では90.5%を占めた。指導者層でより関心が高い傾向がみられた。(Wilcoxonの順位和検定 p<0.1)

「とてもある」「少しある」の「関心あり群」が、保育士層では87.6%,指導者層では90.5%を占めた。指導者層でより関心が高い傾向がみられた。(Wilcoxonの順位和検定 p<0.1)

3. カウンセリングの中で学びたい内容

カウンセリングに必要な知識や技術10項目についてどの程度関心があるかを、同様に5段階評定で回答を求めた平均値を示したものが、図2である。

すべての項目で、関心あり群が半数以上を占めた。「カウンセリングの基本的技法(聴き

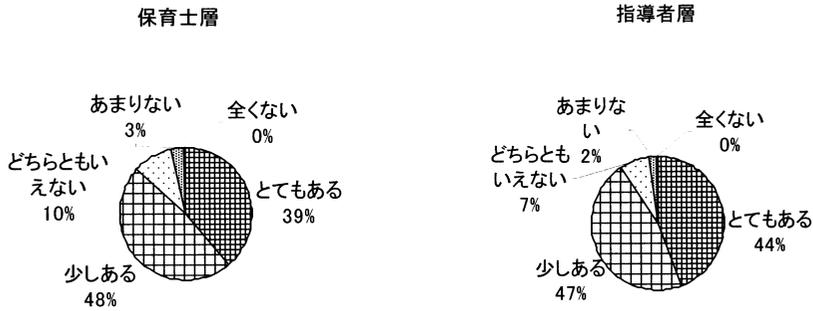


図1 カウンセリングに対する関心

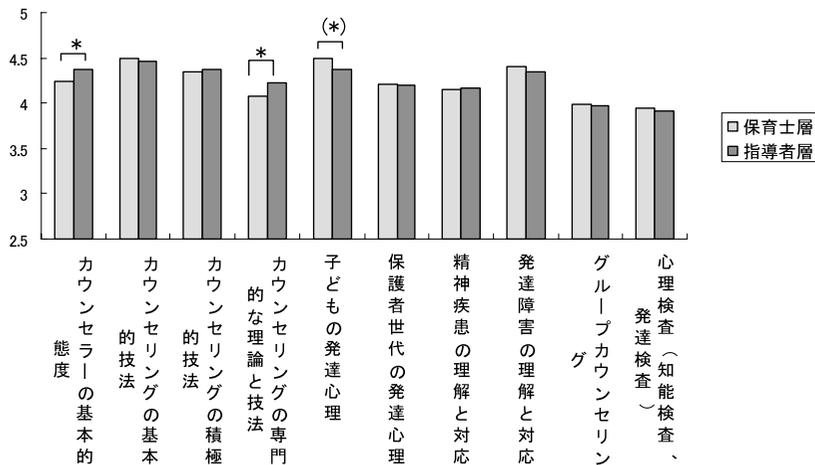


図2 カウンセリングで学びたい内容

* p<0.05 (*) p<0.1

方、話し方など)、「カウンセリングの積極的な技法(情報提供、フィードバック、助言の仕方など)」、「子どもの発達心理」、「発達障害の理解と対応」などは、保育士層と指導者層で、順位は多少違うものの共通して関心が高かった。

「カウンセラーの基本的態度」、「カウンセリングの専門的な理論と技法」に対する関心は、指導者層の方の関心が有意に高く(Wilcoxonの順位和検定 $p<0.05$)、「子どもの発達心理」については、保育士層の方が高い傾向があった($p<0.1$)。

4. カウンセリングの必要性を感じる場面

保育現場で遭遇する各場面において、カウンセリングの知識や技術の必要性を感じるかどうかを、同様に5段階評定で回答を求めた平均値を示したものが、図3である。

保育士層では、1「問題を感じる保護者との関わり」、2「問題を感じる子どもとの関わり」、3「日常での保護者との関わり」の順に必要性を高く感じていた。指導者層では、1「問題を感じる保護者との関わり」、2「問題を感じる子どもとの関わり」、3「自己啓発・自己研

鑽」の順に必要性を感じていた。

「問題を感じる子どもとの関わり」、「問題を感じる保護者との関わり」は、保育士層に有意に高かった(Wilcoxonの順位和検定 $p<0.05$)。一方、「保育者間のかかわり」($p<0.05$)、「自己啓発・自己研鑽」($p<0.01$)は、指導者層に有意に高かった。

5. 保育者が感じている問題

保育者が感じている問題について、同様に5段階評定で回答を求めた平均値を示したものが、図4、図5、図6である。

子どもとの関わりの中で感じる問題としては、保育士層、指導者層とも、「基本的なしつけができていない」が一番多かった。また、「基本的な生活習慣ができていない」、「基本的なしつけができていない」、「親子関係に問題を感じる」の各項目について、指導者層の方が有意に高く(Wilcoxonの順位和検定 $p<0.05$)、「問題行動がある」についても指導者層の方が高い傾向がみられた($p<0.1$)。

保護者との関わりの中で感じる問題については、「基本的な育児やしつけができない」、「子どもに対して放任または過干渉」が、保育士層、指導者層とも多かった。また、「基本的

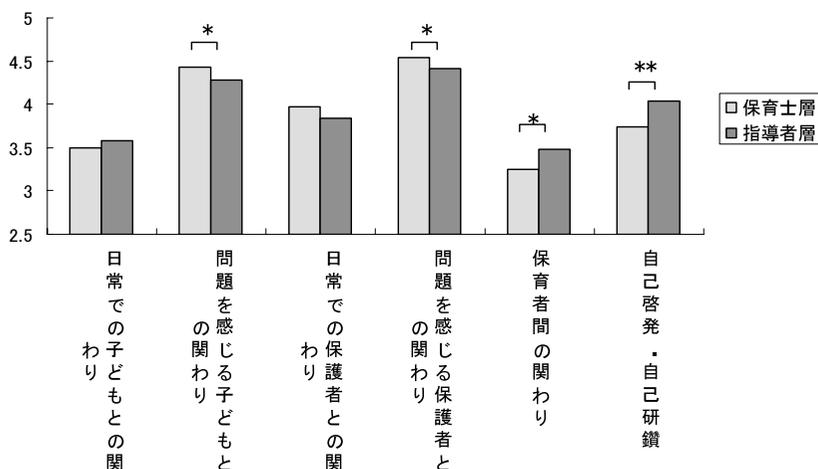


図3 カウンセリングの必要性を感じる場面

** $p<0.01$ * $p<0.05$

子育て支援とカウンセリング(2)

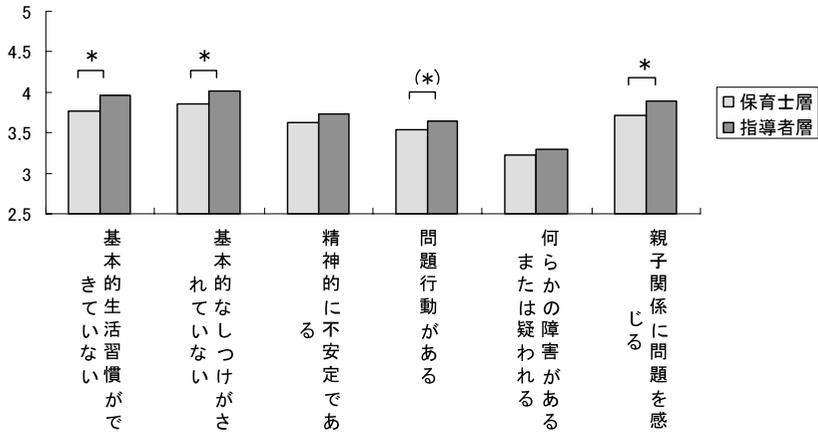


図4 子どもとの関わりの中で感じる問題
** p<0.01 * p<0.05

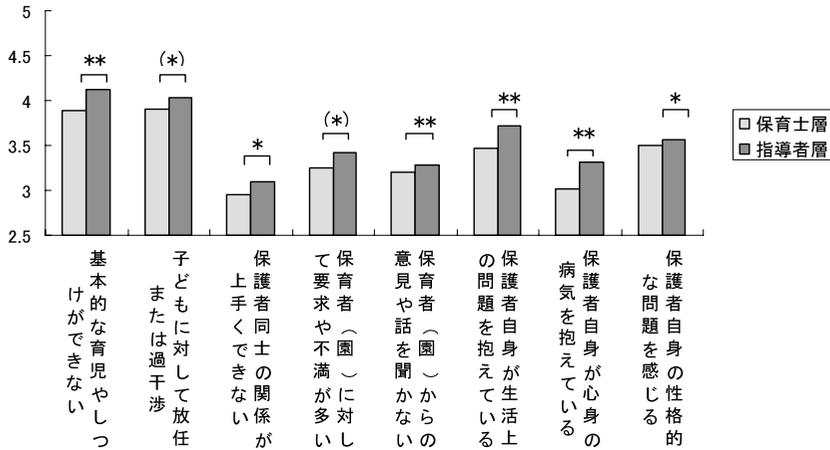


図5 保護者との関わりの中で感じる問題
** p<0.01 * p<0.05 (*)p<0.1

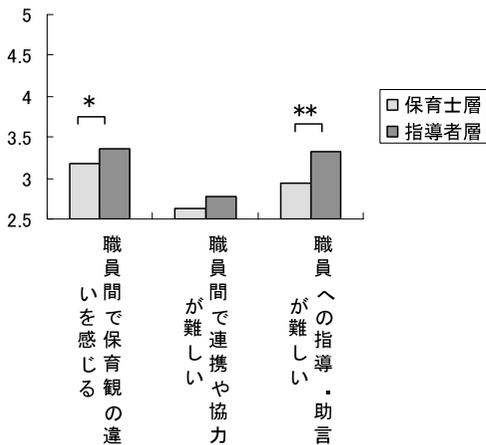


図6 職員間の関わりの中で感じる問題
** p<0.01 * p<0.05

な育児やしつけができない」「保育者(園)からの意見や話を聞かない」「保護者自身が生活上の問題を抱えている」「保護者自身が心身の病気を抱えている」(p<0.01),「保護者同士の関係が上手くできない」「保護者自身の性格的な問題を感じる」(p<0.05)の各項目について、指導者層の方が有意に高かった。「子どもに対して放任または過干渉」「保育者(園)に対して要求や不満が多い」についても、指導者層の方が高い傾向があった(p<0.1)。

職員間で感じる問題については、「職員間で保育観の違いを感じる」(p<0.05)「職員への

指導・助言が難しい」($p < 0.01$)という項目が、指導者層の方が有意に高かった。

6. 相談者

上記のような問題を感じた時に相談する相手について、保育士層、指導者層別に集計したものが、図7である。その他は、職員会議や研修会、園長会、専門書などであった。

保育士層では、1上司(77.8%)、2先輩(72.4%)、3同僚(72.0%)の順で多く、指導者層では、1同僚(68.7%)、2上司(60.2%)、3先輩(33.4%)の順が多かった。

先輩、上司、家族への相談率は、指導者層に比べて保育士層で有意に高く、専門家、その他への相談率は、指導者層で有意に高かった。

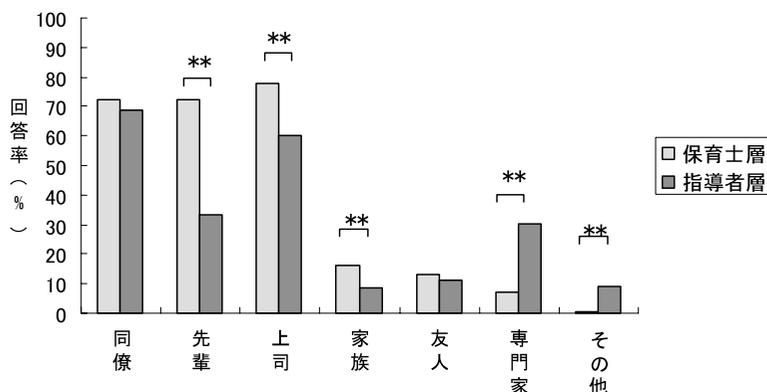


図7 相談する相手(複数回答)
** $p < 0.01$

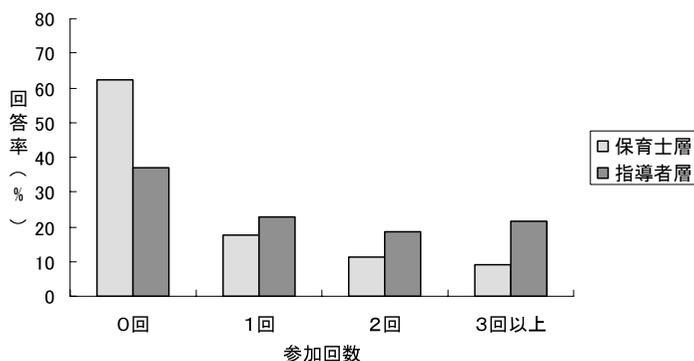


図8 カウンセリングの研修会への参加回数

7. カウンセリングの研修

カウンセリングの研修に参加した回数について、保育士層、指導者層別に集計したものが、図8である。

保育士層、指導者層とも、研修経験のない者が最も多く、保育士層では62.2%、指導者層では37.2%だった。平均参加回数は、保育士層が0.7回、指導者層が1.7回と、指導者層が保育士層より有意に高かった。(t検定 $p < 0.01$)

研修に参加しづらい理由について、保育者層、指導者層別に集計したものが、図9である。

保育士層では69.1%が、指導者層では

子育て支援とカウンセリング(2)

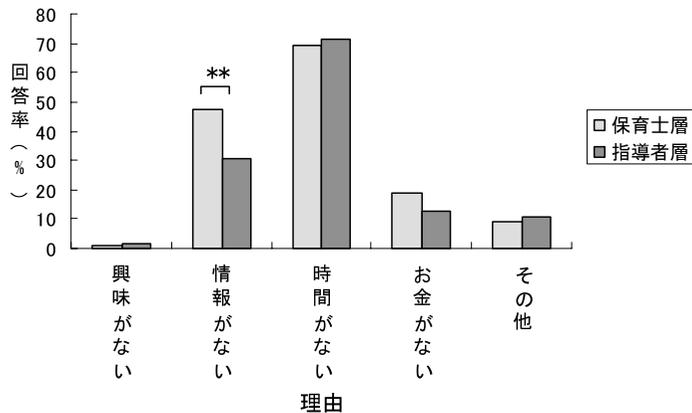


図9 カウンセリングの研修会に参加しづらい理由(複数回答)
* * p<0.01

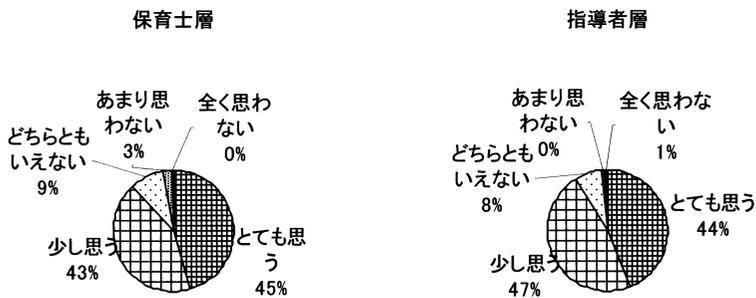


図10 カウンセリングの研修会への参加の希望

72.2%が、「時間がない」と答えおり、どちらの層も一番多かった。次いで、保育士層では47.4%が、指導者層では、30.7%が、「情報が
ない」と答えていた。「情報」については、保育士層の方が、指導者層よりも、有意にないと感じていた。(²検定 p<0.01)

今後、保育者を対象としたカウンセリング研修の機会があったら参加したいかどうかを5段階評定で回答を求めた結果を示したものが、図10である。

「とても思う」「少し思う」の参加希望群が、保育士層では91.1%、指導者層では、88.0%を占め、両層に有意差はみられなかった。

考察

1. 保育者のカウンセリングに対する関心

保育者のカウンセリングに対する関心は、保育士層、指導者層とも高かったが、特に指導者層で高い傾向がみられた。指導者層は、保育士層に比べ年齢や経験年数も高かったことから、子どもの保育のみならず相談業務に携わることも多く、橋本ら²⁾のいう保育士の知識と経験「プラス新しい知識や経験」としてカウンセリングに高い関心を寄せているのかもしれない。

カウンセリングの中で学びたい内容としては、「カウンセリングの基本的技法(聴き方、話し方など)」「カウンセリングの積極的な技法(情報提供、フィードバック、助言の仕方など)」「子どもの発達心理」「発達障害の理解と対応」の関心が高く、石川ら³⁾の研究とほ

ば共通する結果であった。

「カウンセラーの基本的態度」「カウンセリングの専門的な理論と技法」に対する関心が指導者層の方が有意に高かったことは、基本的なことから専門的なことまで幅広く知りたいという指導者層のカウンセリングに対する関心の高さを表しているとも考えられた。一方、「子どもの発達心理」については、子どもとの関わりや保育の経験の浅い保育士層の方がより学びたいと感じるのかもしれない。

2. 保育者がカウンセリングの必要性を感じる場面と問題意識

保育者がカウンセリングの必要性を感じる場面としては、「問題を感じる保護者との関わり」や「問題を感じる子どもとの関わり」が保育士層、指導者層とも多かった。また、保育士層、指導者層とも、子どもとの関わりよりも保護者との関わりで、よりカウンセリングの必要性を感じていた。

保護者や子どもの具体的な問題としては、全般的に保育士層より指導者層の方が問題意識を強く持っていた。特に保護者との関わりの中で感じる問題では、すべての項目において、保育士層より指導者層の方が問題を感じていた。指導者層では、子どものみならず保護者への目配りや配慮、助言など保護者との関わりが増えると共に、後輩や部下からも相談を受けるため、問題意識を持つことが多いのではないかと推測された。

今回の調査でも、問題や困難を感じた時に相談する相手として、保育士層では上司や先輩が有意に多かった。一方、指導者層では専門家やその他に相談する率が高かった。指導者層では、園内では自分が先輩や上司であり他の職員からも相談される立場にあるため、外部の専門家に相談したり、会議や園長会、研修会、専門書などで勉強・検討しながら、解決への道筋を探ることが多い現状が推測された。

また、指導者層では保育者層より、「職員間で保育観の違いを感じる」「職員への指導・助言が難しい」という回答が多かったことも、指導者層で「保育者間の関わり」や「自己啓発・自己研鑽」において、カウンセリングの技術や知識の必要性を強く感じる理由の一つと考えられた。指導者層では、子ども対応や保護者対応のみならず、保育観の異なる職員間での円滑なコミュニケーションや相談・指導、保育所運営のための自己研鑽の手段としても、カウンセリングの必要性を感じているのではないかと推測された。

3. 保育者のカウンセリングの研修

保育士層では62.2%、指導者層では37.2%が、カウンセリングの研修を受けた経験がなかった。保育所に就職して2年目と6年目の保育士に対して保育研修への参加を調査した水谷ら⁴⁾の研究では、80%以上が研修への参加経験があり、年4回以上参加している者も40~59%と報告されており、本研究の結果とはギャップがあった。このことから、各自治体等が実施している保育研修では、まだカウンセリングの研修はあまり行われていないことが推測された。

カウンセリングの研修に参加しづらい理由としては、保育士層、指導者層とも、「時間が無い」という理由が最多であったが、次いで「情報が無い」という理由が多く、特に保育士層に有意に多かった。指導者層では保育者層に比べると、カウンセリングの研修会に参加した経験者が多いため、多少情報も入りやすくなるのかもしれない。

保育士層、指導者層とも、約9割前後が、保育者を対象としたカウンセリング研修の機会があったら参加したいと答えていたことから、カウンセリングの研修会が数多く開催され、情報が行き届けば、多数の保育者が参加し、カウンセリングの技術や知識が現場で生かされるのではないかと推測された。

まとめ

埼玉県の認可保育所に勤務する保育者を対象として、カウンセリングに対するニーズを中心とした質問紙による調査を行い、保育士層と指導者層で比較検討した。

指導者層の方が、カウンセリングに対する関心、子どもや保護者、保育者間の関わりにおける問題意識が高く、保育の現場におけるカウンセリングの技術や知識の必要性も強く感じていた。

カウンセリングの研修への参加経験は、保育士層で有意に少なく、6割以上は参加経験がなかった。その理由としては、時間がないことや情報がないことがあげられていた。

しかし、保育者を対象としたカウンセリング研修への参加希望は保育士層、指導者層とも約9割であり、両層ともニーズとしては充分にあることが確認された。

引用文献

- 1) 若林明美「養成校におけるカウンセリングの授業についての実態調査」日本保育学会大会発表論文抄録, 2001, pp.620-621
- 2) 橋本真紀他「保育所併設型地域子育て支援センターの現状と課題」保育学研究, 第43巻第1号, 2005, pp.76-89
- 3) 石川洋子他「子育て支援とカウンセリング(1)」文教大学教育学部紀要, 第39集, 2005, pp.51-62
- 4) 水谷孝子他「保育士の専門職性を支える条件」全国保育士養成協議会第44回研究大会研究発表論文集, 2005, pp.108-109